S.O.E. News no.13

WWW.NPO-SOE.JP

NPO センスオブアース・市民による自然共生パンゲア からのお知らせ

2006.4

いたばしビオトープネットワーク

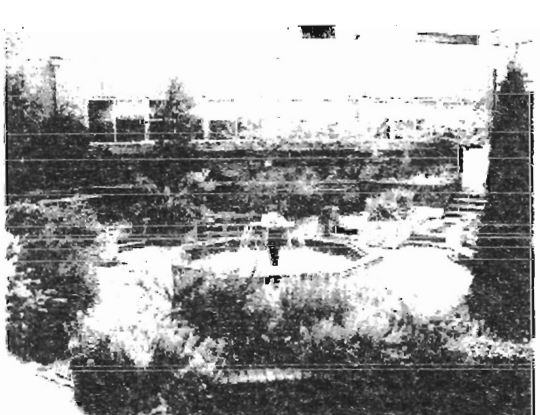
香り漂う学校ハーブガーデンづくり、小さな命が生きるミニビオトープガーデンづくり、地球温暖化を考える緑のカーテンの活動と校庭一部芝生化、そして雨水の積極的な利用など、エコロジーの取り組みが続く

学校訪問シリーズ 3 高島第三中学校

雨水東京国際会議で発表した
自然科学部の生徒たち

昨年の夏に、ＮＨＫの朝のニュースで生徒たちの緑のカーテンづくりが大きく取り上げられ、全国に知られるようになった高島第三中学校。平成１７年度は文部科学省から、環境教育実践モデル校として指定されて、海外からの視察団も訪れたそうです。

生徒たちは、学校独自のハーブ園やビオトープを自分たちの手で作り上げました。それらは雨水を利用することで環境教育の施設としても活用しています。昨夏、雨水東京国際会議に自然科学部の生徒たちが参加し、雨水を利用した環境活動を発表しました。この３月には、校庭の芝生化にもとり組んだと伺い、百聞は一見にしかずとＳＯＥは早速学校を訪問させて頂きました。



手作りのハーブガーデンはみんなの
憩いの場です

Ｑたくさんのエコ活動の中で、どの取り組みから始めたのですか。

清水前校長先生―２００２年に着任し、その年にハーブガーデンを保護者・地域・ＮＰＯの協力を受け、ボランテイア部、自然科学部、園芸部などの生徒たちが中心になってつくりました。事務職員の太田さんが所属するＮＰＯ日本コミュニテイガーデニング協会の支援を受けたことがきっかけです。

Ｑこのハーブガーデンの管理はどうしているのですか。

清水前校長先生―４０種類のハーブや樹木、球根や草花のために生徒たちが草取りから肥料やりなど、なんでもやっています。散水は、雨水を貯めたタンクから、タイマーを使って自動で水がチューブから出る仕組みになっています。同時に地域の方やＮＰＯの方が管理に協力しています。もちろん職員も参加していますが、転勤があるため引き継ぎが難しい場合があります。その点、地域の方は地域に住み続けているので、地域の方々の力を借りることは、環境をずっと守っていくために大切なことです。

Q 教育活動で、どのように活用しているのですか。

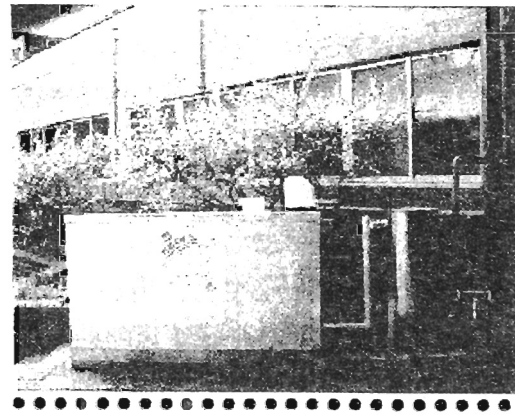
清水前校長先生―主に、園芸ボランテイア部や自然科学部などの部活動や、いきいき寺子屋の活動などに利用しています。授業で取り組んでいるのは、心障学級の総合的な学習の時間での活用です。ハーブを収穫して香り袋を作ったり、ハーブクッキーを焼いて、板橋区民まつりの会場で販売しています。生徒たちは手作りクッキーを自分たちで販売し、その成果で、テーブルマナー教室を開いたり、いろいろな郊外学習の費用にあてたりしています。クッキー作りから区民まつり参加の一連の流れは、調理実習や職業体験にもなります。

Q 先生方はどのように考えておられますか。

清水前校長先生―環境が良くなったと評判が良いです。活動中の生徒たちが喜ぶ姿を見守っています。先生方も一緒に参加して、作業の後は、生徒たちとハーブテイを飲み楽しんでいます。

Q 雨水タンクはとても大きいものを用意しましたね。

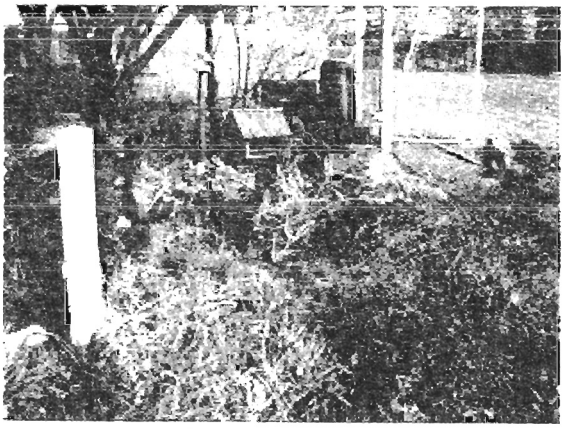
清水前校長先生―板橋区の予算で設置されました。1トンの雨水を貯めることができます。総合的な学習の時間の環境教育にも活用しています。



雨水タンク

Q 校舎の南側につくられた“香りの小径”や“ビオトープ”は、どういう経路でつくられたのですか。

清水前校長先生―荒れていた場所を整備する目的もありました。地域やＮＰＯの協力を受けて、ボランテイア部、自然科学部、園芸部の生徒たちが部活動の中で作り上げました。教育委員会が予算化してビオトープを造成したものではなく、自分たちの手で創り上げたことを、生徒たちは誇りにしています。生きものはメダカやヤゴ、以前は蛙もいました。理科の教材や総合学習での活用があります。そのそばに、生徒たちの憩いのスペースとして、自然科学部の生徒たちによってウッドデッキが設置され、休日に運動部の生徒も部活動の合間にお弁当を食べたり、休憩場所として利用しています。ビオトープの水車の水の音やハーブの香りが漂う憩いのスペースです。



ビオトープ

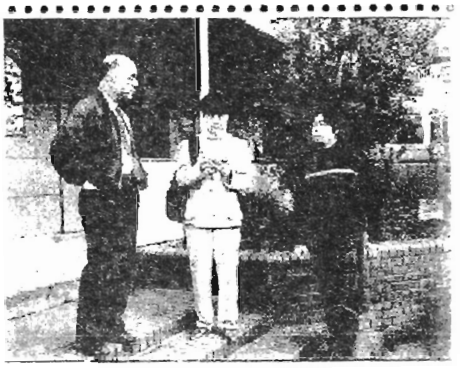
Q 三中はいろいろなエコ活動に学校として取り組んで来られた訳ですが、校長先生の子どもたちへの願いをお聞かせ下さい。

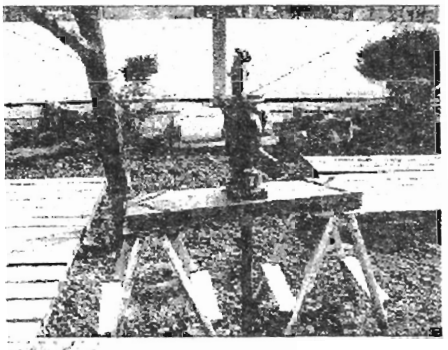
清水前校長先生―いま、子どもたちの前にある自然そのものが危ない。何とかして子どもたちに自然と共に生きて自然の中で生きていけるようにさせたい。自然に優しく出来る子は、人間に優しくなることがわかっている。そういう子を育てたい。将来そうい

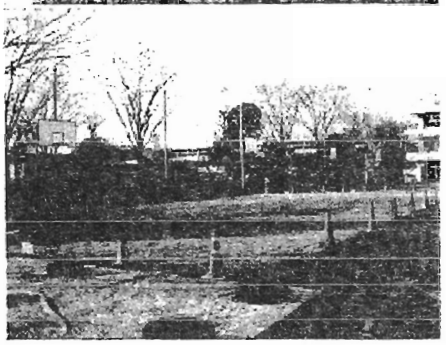
センスオブアースは板橋区内の学校ビオトープの情報化、ネットワーク化を進めています。

う子が役に立つ。子どもたちに、命の尊さ、生命力、自然の偉大さを体得させたい。ハーブガーデンや緑のカーテンなど、園芸の活動にもそうした効果があると感じた。先生方は総合的な学習の時間で、環境や自然を教材に取り込んで、子どもたちに社会の役に立つ人間になろうと働きかけた。先生方自身も、自ら喜びや意義を感じ、いろいろな行事にも進んで参加する姿勢が見られた。(ここで、校長先生は次の予定へ出発です。生徒や、先生方、地域、自然への愛情がほとばしるお話をありがとうございました。)

子どもへの夢を語る清水前校長先生(左)と職員太田さん(右)、SOEスタッフ寺田(中)







Q井戸のようなポンプがありますが、何ですか。

職員の太田貴信さんー大学と企業が利用法を共同研究している廃ガラス１００％でつくられた軽石のようなものを地面の下に敷き詰め、底に雨水が浸み込んで自然に貯まった水をくみ上げるためのポンプです。この水を生徒たちはキュウリの栽培に利用しました。この石の小さな穴には好気性微生物もすみつき、水の浄化作用も有しており濾過剤としても利用できるなど、自然にやさしいリサイクル商品だと思います。雨水ポンプのほかにも試験的に学校の屋上にガーデンをつくり研究に協力しています。この石は非常に軽いので屋上緑化にも適しています。みどりのカーテンの鉢底土として利用した結果、大変効果的でした。

Q芝生を敷こうとした理由を教えてください。

太田さんー東京都から板橋区に助成金を受けるためには、地域との協力組織があることが条件でした。本校はハーブ園からの取り組みで地域とのつながりは出来るのではないかと考え、芝生化が校長先生から提案されました。都の予算化は、地球温暖化やヒートアイランド対策としての目的があります。芝生化による周辺の温度変化について１０分おきに気温が計測されていて自然科学部の生徒がデータを毎月パソコンに取り込みます。

Q緑のカーテンはどうして取り組むことになったのですか。

太田さんー本校では、雨水利用の取り組みが先にありましたので、緑のカーテンにも取り入れ自然科学部の生徒たちが活躍しました。３学年の総合的な時間や道徳の授業でも、緑のカーテンや雨水利用が題材となりました。雨水利用でバングラデシュなどの支援活動をしている方をゲストティーチャーに招き環境の問題と助け合いの大切さを学びました。

Q緑のカーテンの規模はどれくらいですか。どんな工夫をしたのですか。

太田さんー２５～３０メートルで２階から３階の部分６教室分です。自然科学部２０名で取り組

みました。カーテンがある教室とないところでは、１０度近くもの温度差が出た時がありました。ベランダ栽培なので、重量を出来るだけ軽くするため、廃ガラス１００％でできたリサイクルの軽石を利用したり、肥料に、給食の残菜や落ち葉で作った堆肥を使ったりしました。プランターは保護者ＯＢ・地域・企業から、制作協力と資材提供がありました。

自然科学部の労作、緑のカーテン

Ｑ次年度の計画があったら、教えてください。

太田さんー課題として、採れた種から、苗を作る・連作障害への対策・緑のカーテンを通した環境問題の啓発、地域へのつながり。改善策として　苗床、培養土の準備、土の入れ替え、地域への情報発信、地域への苗配布などです。

子どもたちが手作りしたハーブ園や緑のカーテンやいろいろなビオトープからは人との関わり、雨水をはじめとした自然の恩恵と偉大さ、生態系や命の尊さを学び、温暖化防止の活動にも生かした高島第三中学校。生徒たちのこれからの活動がますます楽しみです。

SOE観察会予定

鳥や虫たちの通り道をたどる ミニ探検に行こうin板橋・蓮根

“NHK生活ほっと”“子ども電話相談室”の藤本和典さんをお迎えして

6月17日(土)　10時～
於・板橋区立蓮根第二小学校校庭ビオトープ前集合
荒川土手（板橋区自然生態園付近までを散策）
現地集合・現地解散
参加費無料

駅までの道、学校までの道、仕事場までの道…。
私たちの日常生活にかかせない「道（道路）」があるように、鳥や虫たちにも『コリドー（回廊）』があります。
鳥や虫たちの道って???　そこには標識も信号もありませんが、彼らが残した印があるんです。その印をたどって行くと…。
彼らがどうしてそこを通るのか？　その訳がわかると、鳥や虫たちの生活が少しみえてくるかもしれません。
今回のミニ探検（観察会）には、「子ども電話相談室」の回答者としても活躍されているナチュラリスト、藤本和典先生が皆さんを荒川までナビゲートしてくれます。是非親子でご参加ください。

参加費：無料
コース：蓮根第二小学校～　新河岸川～　荒川土手・自然生態園近辺で昼食後解散（全行程徒歩）
持ち物：昼食、飲み物（アルコールは不可）、筆記用具、雨具（天気予報参考）双眼鏡（持っている方）など
※履きなれた靴でご参加ください。

◎参加者が多数の場合は、コースを変更する場合もありますので、事前にご確認ください。

お申し込み　お問い合わせは
電話　03-3960-6052　または　Eメール info@npo-soe.jp　センスオブアースまで

発行　特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア
東京事務所　東京都板橋区前野町４－８－６（〒174-0063）phone: 03-3960-6052　fax: 03-3960-6053
e-mail: info@npo-soe.jp　url: www.npo-soe.jp